

意見聴取会 意見陳述申込書

天塩川流域委員会 宛

天塩川の河川整備・管理について、次のとおり意見を述べたいので申し出します。

平成17年3月21日

1. 意見陳述申込者

ふりがな
氏 名

年齢 51歳 性別 男

住 所 北海道上川郡下川町

2. 意 見 (要 旨)

* 天塩川流域委員会のあり方について～流域に居住しない学識者に偏重した委員構成、表面的にしか現場を知らぬ大多数の民間委員、独自の現地調査を抜きに開かれる会議、流域の実態をめぐる委員間の討議もないに等しい。これでは、まともな天塩川の将来像など提言できない。

* 天塩川最大の河川事業・サンルダムについて～事業者は、ダムによる流域の経済・地域振興効果を具体的に把握しておらず、インフラ整備の基本が欠落。これまでの各種治水工事の進展に流域住民の9割近くが満足（開発局調査）しており、急いで建設する理由は何もない。利水（水道、発電）は付け足し。流域住民の多くも「ダムが必要」と思っていない。

「建設促進」を唱える行政などは、事業者が示す建設目的よりも「公共事業で落ちるかもしれないおカネ」に過大な期待を抱いている。これでは「無用の長物」を造り、環境破壊をもたらす結果を招くだけ。インフラ整備の基本を踏まえた別の公共事業に転換しなければ、天塩川はつぶされてしまう。

過去の河川改修やダム事業がもたらした功罪について、現場を歩いてきちんと調べ、検証していく作業を抜きに、どうして「河川整備計画」を立案できるというのか。

* 天塩川の復元について～細い木しか残っていない天然林、手入れの行き届かない人工林、貧弱な河畔林…。こんな実態があるのに、流域委員会では森林をめぐる議論が欠落。洪水調節や土砂流出防止などの機能を持つ森林を復元することなしに天塩川の将来は語れない。荒れた旧川の復元も手つかずの状態。従来型の公共工事の前に、こうした事業によって流域の生態系を復元・保全することが急務である。